

月	日	年	組	番	名前
---	---	---	---	---	----

# “金の卵”世界へ一歩

## 選手育成 事業開講 県、小4の30人認定

運動能力が優れた小学4年生を発掘し、県独自の育成プログラムで継続的に支援する新企画「世界へ羽ばたくトップアスリート育成事業」（県教委、県体育協会主催）の育成選手30人が決まり、15日、水戸市内で開講式が開かれた。選手たちは600人以上が参加したスポーツ能力測定会で資質を評価された「金の卵」。この日は交流会や元

五輪選手の講演も行われ、トップへの一歩を踏み出した。育成選手は、動作習得に最も有利な年齢とされる「ゴールデンエイジ」（9〜12歳）の県内小学4年生が対象。10バスケット、敏しように性、ジャンプ力など計6種目の能力測定会を9月に行い、選抜した。毎年30人程度選出し、小学6年生までの間、各種競

技を経験する場を設けて適性のある競技へ導く。また、心身のトレーニングや栄養学などの講座を実施し一流選手になるための意識付けを促す。これらの取り組みは年3〜10回を見込む。開講式では、小泉元伸県教育長が「来年は東京五輪が開催される。将来、世界のひのき舞台で活躍するトップアスリートに成長することを期待している」と激励。選手を代表し、つくば市立吉沼小の酒寄結音（ゆづり）

が「一つでも多く学び、県日本を代表するアスリートとなるよう努力する」と宣誓した。育成選手の認定証が交付され、同市立桜南小の佃豪将（たけごろう）さんが代表し受け取った。式終了後、佃さんは「もつとスポーツがうまくなれそつで楽しみ。現在やっているバスケットも含め、自分に向けた競技を見つけ、五輪出場を目標に頑張りたい」と力強く語った。プログラムは12月12日に本格始動。同日はJ1鹿島アントラーズのクラブハウスで、スクールコーチから「体の動かし方」をテーマに指導を受けるほか、県立カシマサッカースタジアムで試合を観戦する。



育成選手に認定され飛躍を誓う県内の小学4年生たち＝水戸市宮町のホテルレイクビュー水戸

- ① 記事で伝えたい内容の中心となる文章に線を引こう。
- ② 関心を持ったことや感じたことを書いてみよう。

チャレンジ 友達と話し合い、新たにわかったことや友達の意見をメモしよう。

SAMPLE

2020年11月16日付

